

[様式14]

(対象事業：3. ミュージアムを核とした地域の人材・組織の育成、連携、活用に関わる事業)

事業名：夏休みアートdeホームステイプロジェクト

事業者名：夏休みアートdeホームステイプロジェクト実行委員会

連携事業館名：米子市美術館、米子市児童文化センター、米子市淀江文化センター、

ホープタウン、とっとり花回廊、アートとっとり実行委員会

住 所： 鳥取県米子市中町12番地(米子市美術館)  
TEL： 0859-34-2424  
FAX： 0859-33-0679  
HPアドレス： <http://www.yonagobunka.net/y-moa/>

### ①施設概要

米子市美術館が所属する米子市教育文化事業団の理事長を会長に、米子市美術館、米子市文化ホール、米子市児童文化センター館長及び日本海新聞事業局長、地元で活躍する絵本作家や市内の中学、高校、高等専門学校の美術教員により実行委員会を組織した。

### ②事業の意図目的

関係者以外鑑賞する機会の少ない米子市内の障がいのある方が制作した作品の素晴らしさを紹介する機会とするとともに、保護者が美術に興味が無いなどの理由で普段なかなか美術館などを訪れる機会の少ない子ども達に作品鑑賞の楽しさを体験する機会を提供する。また、展示協力施設等の方々に主体的に携わっていただき、当該事業以後も美術館との連携を継続する協力体制の基盤とする。

### ③事業概要

市内各所に障がいのある方が制作された優れた作品を展示する。また、展示場所と美術館を結ぶバスツアーを企画し、作品鑑賞の楽しさを体験する機会を提供する。併せてワークショップを開催し、自由にのびのびと活動する楽しさを体験する機会を提供する。また、宮城まり子氏を講師にした講演会及びねむの木学園の園生のギャラリーコンサートを開催することにより、全ての子どもたちには素晴らしい才能に満ちあふれているのだということに気づくきっかけを提供する。

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他(ポスター、チラシ)  
作成した報告書等  
ビデオ( )  
冊子(報告書 )  
その他( )

### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 約 6,000 人  
内 訳 講演会 300名、ギャラリーコンサート 約300名、バスツアー250名、  
展覧会鑑賞(各会場合計) 約5,000名 ワークショップ 150名

## (1) 事業の実施状況について

- 7月 9日に実行委員及び企画委員による第1回打ち合わせを米子市美術館を会場にそれぞれ実施した。
- 7月15日に宮城まり子氏講演会を「ふれあいの里」にて実施した(参加者300名)。
- 7月16日に米子市美術館第4展示室において、宮城まり子氏指揮のもと、ねむの木学園々生によるギャラリーコンサートを実施した。
- 7月27日から8月10日にかけてとっとり花回廊北館ギャラリーにおいて、障がいのある人のための教養文化施設「米子サンアビリティーズ」内で開かれている絵画教室の生徒作品と、知的障害者通所施設「吾亦紅」、障害者地域交流センター「おおぞら」の書道教室に通っている方々の作品展示「YONAGO アートの森 in とっとり花回廊」を開催した。
- 8月11日～8月26日にかけてホープタウンにおいて知的障がい者更生施設「もみの木園」の利用者の方々が制作した作品約70点を展示した「YONAGO アートの森 in ホープタウン」を開催した。会期中は、同園において絵画指導を行っている絵本作家の玉井氏によるサイン会やワークショップなどを関連事業として実施した。
- 8月17日～8月24日にかけて米子市中心部に位置するほんどうり商店街において知的障害者更生施設「もみの木園」利用者の方々の制作した作品展「YONAGO アートの森 in ほんどうり商店街」を実施した。
- 8月21日と8月24日にバスツアー「よなご・こども・アートクルーズ」を実施した。
- 翌年3月27日に報告書が完成、関係各方面に配布、発送した。

## (2) 地域との連携について

本会実行委員会の委員に、米子市美術館及び米子市教育文化事業団に所属する各文化施設をはじめ、市内を中心に鳥取県西部の文化施設や商店街、大型ショッピングセンター、米子市内の中、高、高専の美術担当教員の方々、地元の新聞社である「日本海新聞」や、米子市内を中心に障がいのある方々のアート活動を支援する「アートとっとり」実行委員会の方々にご協力をいただき連携をとることにより、当該事業の広報活動をはじめ、展示場所やワークショップ会場の提供、展示・撤去作業、市内の展示場所を巡るバスツアー「よなご・こども・アートクルーズ」やワークショップ実施にあたっては、スムーズに事業が運営できるようご尽力いただいた。

また、本事業終了後も、市内中心部にあるショッピングセンター「ホープタウン」では、障がいのある方々の作品展示を自主的に継続して実施されており、単発の事業ではなく、連携の輪が事業終了後も継続していることは大きな収穫である。





「よなご・こども・アートクルーズ」参加者記念撮影（8月21日Aコース）

### （3）成果物について

本事業についてまとめた冊子「夏休みアート de ホームステイプロジェクト事業報告書」を編集、発行し、市内関係各所をはじめ、国内の主要な美術館、図書館、博物館などに配布することができた。



報告書

#### (4) 参加者の反応

これまでも各地で障がいのある方々の作品展示は、障がいのある方々の活動拠点のギャラリースペース等で実施されてきたが、「障がいのある方々の制作した美術作品」ということで、根拠の無い先入観から作品鑑賞の場に足を踏み入れることに二の足を踏んでいた方々が多く、なかなかその素晴らしさを沢山の方々に伝えることができないでいた。しかし、市内の書店や、中心部のショッピングセンターなどのオープンスペース、鳥取県西部有数の観光地である「とっとり花回廊」での展示は、気軽に会場に入ることができ、作品鑑賞する機会が持てたとのことで好評であった。

また、夏休み期間中、保護者が美術に興味が無く、美術館をはじめ、さまざまなアートイベントに参加するための交通手段が無いということもを対象に実施したバスツアー「よなごこどもアートクルーズ」は、結果的には個人参加の小学生をはじめ、学童保育の団体や、近隣の県からの保育所など団体での利用もあり、これまで美術館でフォローできていなかった来場者への積極的なアプローチとして効果的であった。

また、参加者それぞれからも、まとまった形でそれぞれのイベント会場をまわり、鑑賞だけでなく、ワークショップでは障がいのある方々とともに創作する機会を持ち、交流できた場面もあったなど、さまざまなアート活動に触れる機会をもてたということもあり、「夏休みのいい思い出になった」などとの声を数多くかけていただくなど、大変好評であった。



「ホープタウン」会場においてナビゲーターの解説を受ける参加者



(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

美術館の外で実施する展覧会の会場設営費や美術館以外の場所を巡るバスツアーのバスチャーター代金などは、美術館の予算として組むことが大変難しいものであるが、芸術拠点形成事業の助成を得ることにより、鳥取県西部エリアの、これまでその存在は知っていたものの、有機的な連携が取れていなかった各施設、団体と一つの事業を推進するという目的を持って連携をとることができた。また、運営にあたって美術館で持っている展示や広報面でのノウハウを活用することにより、関係諸団体の活動の参考とすることができ、事業実施後の活動方法に変化が見られ、また、連携が継続してこれまでも続き、様々な活動で協力体制をスムーズにとりやすくなった。



バスに乗り込む参加者



ワークショップ参加後、迎えの保護者を待つ一部参加者



子どもたちを美術の世界へ

ホームステイ  
プロジェクト  
**実行委が発足**

米子市美術館で開催中の「ねむの木」子どもたちと「米子市美術館」の付帯事業として米子市内の子どもたちを美術の世界にさざなむ「夏休みアートホームステイプロジェクト」の実行委員会が、先日、発足した。無料バスで市内の美術館やワークショップを巡るイベントなどを実施する。市教育文化事業団（小

林道正理事長）が中心となり、文化庁の芸術拠点形成事業の認定を受けた。主な事業は「ねむの木」にちなんで、木園（米子市露前）の利用。省らの作品を展示する「アートの森」ホープタウン（▽市内の子どもたちを対象に市美術館やアートの森などを巡る「よはじこどもアート絵本作家の玉井嗣さんのワークショップ参加（二十四日）などの日程が組まれている。

参加には入館料など実費が必要。問い合わせは電話0859-3462424、市美術館へ。

子どもを対象にした米子市内の文化催事をバスで巡るイベント「よなご・こども・アート・クルーズ」が二十一、二十四の両日に開かれる。主催の米子市美術館は十日まで参加者を募集している。

文化庁芸術拠点形成事業で、市美術館が取り組む「夏休みアド・ド・ホームステイプログラム」の一環。夏休みを利用して小中学生に各文化施設や展覧会などの文化的な催しを体験してもらう。

市美術館で開催中の「ねむの木

## 展覧会や催し体験

21.24日 **よなご・こども・アート・クルーズ**

木のこどもたちとまり子美術展「もみの木アート作品展」  
「夏休みこども映画祭」「子供造形展」「プラネタリウムを組み合わせた各アランから、希望のコースを選んで貸し切りバスで巡回。ワークショップにも参加する。

各施設の入場料などとは実費が必要だが、バスやワークショップの材料費、保険代は無料。対象は小学校中・高学年から中学生。実施人数は十四人程度。申し込み多数の場合は日程を調整する。

申し込み、問い合わせは電話0859(34)2424、米子市美術館へ。

もみの木園の  
利用者が力作  
米子、絵画など70点展示

「YONAGART  
の森」ホーフタウン」  
が十一日、米子市米原二  
丁目のホーフタウンで始  
まった。知的障害者厚生  
施設「もみの木園」（米  
子市富益町）などの利用  
者の絵画が展示される。買  
い物さらが色彩豊かな作  
品群の鑑賞を楽しんでい  
る。二十六日まで。

ホーフタウン二十五箇  
年特別企画。会場の三階

個性を反映した色彩豊か  
な作品が並ぶ会場。十一  
日、米子市米原二丁目の  
ホーフタウン



同作業所分場の「はっと  
茶町」の利用者らによる  
約七十点の絵画や絵本の  
原画を展示。

紙いっばいにペンでや  
るべると円を描くように  
して描いた作品や動物や  
野菜、車などを伸び伸び  
と描いたものなど、個性  
が反映された絵がすう  
り。絵本作家の玉井詞さ  
んと同作業所利用者共著  
の絵本『てんてんぱん』な  
どの原画もあり、見る人  
の心を捕さぶっている。  
作品二点が展示されて

いるという松本敏子さん  
「き」は「絵を通して人に  
見せたい絵を通して交  
流ができることがうれ  
しい」とこり。小西健  
夫社長は「純粋な心で描  
いている素晴らしい人た  
らが地元にいる。多くの  
人に見てもらいたい」と  
話していた。

十二日午後一時からは  
絵本作家の玉井さんらの  
サイン会がある。また、  
十九日午後一時半からは  
絵を描くワークショップ

# 「アート・クルーズ」

## 米子の児童らに見学

ねむの木のと  
どもたちと  
まり子美術展  
やさしくね  
やさしくね

子供が文化催事をバス  
で巡るよなことも、  
アート・クルーズが二  
十日開かれ、夏休みで  
参加した小学生が米子市  
美術館で開催中の「ねむ  
の木のとどもたちとまり  
子美術展」などを見学し  
た。

(23面に関連記事)



文化庁芸術鑑賞形成事  
業で、市美術館が取り組  
む「夏休みアート・クルー  
ーズ」の一環、小中學生に  
一時的に無料開放した同  
市内の文化施設や、壁紙  
会をはじめとする文化財  
な催しを体験してもらう  
のがねむの木。

市美術館の四階や「夏  
休みとて映画展」「も  
みの木アート作品展」  
「子ども造形展」をはじめ  
米子市造形文化センター  
の「フタタリウツタミ」  
学コースになっている。  
この日は小学生約七十  
人が市美術館を皮切りに  
スタート。ねむの木園  
のごもたちがいっぱひな色  
鮮やかな作品などを見  
くろりと鑑賞した。二十四  
日は「ねむの木展」を訪  
れ、フタタリウツタミを  
予定で、市美術館が参  
加者を募集している。問  
い合わせは電話0859  
—(34)2424、米子  
市美術館へ。

日本海新聞掲載数合計9回（他に7月16日、17日、29日、8月16日、19日）